

賃貸生活「星ヶ丘」から「東三国」へ

先日、名古屋で会議などがあり、朝早く名駅西のリニア「定点観測」地点から星ヶ丘に向かった。昨年12月初めまで住んでいたUR「アーバンラフレ星ヶ丘」。20年余り沈滞していたので、やはり愛着がある賃貸住宅だ。

6階のわが家跡まで行ったが、まだ入居していないようだ。この廊下を行くと、エレベーターがある。昨年暮れの引っ越し「騒動」を思い出す。何十回も重いごみを持って、廊下を歩き来したものだ。引っ越しのとき、タンスを玄関から出すことができず、引っ越し業者さんが廊下側の窓を外し、必死にタンスを運び出したことなども。



階段から「定点観測」していた東の空を久しぶりに、じっと眺めた。朝焼けの空が美しかった。大きな2棟のマンションに黒いシートが。ここも、かなり古いマンションだ。



愛知万博で揺れ動いた瀬戸・海上の森が遠くに見える。いまから20数年前、愛知万博誘致「騒動」にかかわり、瀬戸の人たちと声をあげた。大阪に移り、再び万博に関わることになるとは。今度は海上の森という「里山」ではなく、湾岸部の夢洲が舞台の「カジノ万博」である。そもそも「ありえへん万博」なのだが。



話をURに戻すと、写真の廊下は「中古」には見えないほどだ。じつは2年ほど前に、団地リニューアル作戦が展開され、見違えるようになった。ベランダ側も足場が組まれ、黒いシートにおおわれた。夏の暑いときだったので、工事のあいだ憂鬱な日々が続いた。写真の足場の間から見える西の夕焼け空も、記憶に残る一枚だ。

せっかく美しくなった「アーバンラフレ星ヶ丘」から引っ越して、大阪「アーペイン東三国」で住むことになった。UR賃貸住宅で再び「沈滞」生活を続けることになる。新幹線、JRや地下鉄の駅にも近く、買い物にも便利だ。星ヶ丘とは違って、「下町」的な雰囲気も味わえる。残念なのは、眺望が「いまいち」なことだ。でも、遠くに生駒山などが見え、それなりに「定点観測」を楽しんでいる。

「アーペイン東三国」も古い団地だ。ここでも団地リニューアル作戦に出くわすことになるとは、正直なところ驚いた。これも古き賃貸住宅に沈滞しているためだ。でも見違えるようになったURを見るのも楽しみだ。廊下側のリニューアルは進行中だが、ベランダ側の工事は終了して、もうすぐ足場が取り外される。嬉しいかぎりだ。



(2018年5月30日)